

## 弥勒堂

弥勒堂は、高野山の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）の母、玉依御前の廟として建てられました。内部に祀られている弥勒菩薩（未来仏）の見事な木像は国宝に指定されています。

弥勒堂は厚い桧皮で葺いた屋根のついた宝形造です。建築様式は平安時代（794-1185）のものですが、内部の欄干の建設は鎌倉時代（1185-1333）後期の半ばに行われました。弥勒堂の建物は1965年に国の重要文化財に指定されました。

弥勒堂は、入滅後に悟りを開いた空海の母のご利益を求める女性の参拝者にとりわけ人気があります。和歌山県出身の作家・有吉佐和子が『紀ノ川』という作品中で参拝者が乳房の形をした供物や絵馬を残す慣習について記した後、祈りに訪れる人々はこの慣習を復活させました。